

# 和地ひとみレポート No.356

## 東大和市男女共同参画に関する市民意識調査 真の意義を正しく理解できるように



### ■新たな計画を作成するために

…“男女共同参画社会”という言葉を目にしてから、早いもので20年以上が経過しています。国を挙げてのこの取り組みについては、様々な法律がありますが、基本となるのは1999年（平成11年）に制定された『男女共同参画社会基本法』です。この“男女共同参画社会”という定義ですが、一足飛びにこの定義となったわけではありません。当初は、女性が様々な場面で不利な立場に置かれている状況を改善すべく、女性の地位向上の重要性にフォーカスし、女性を対象とした施策＝女性プランというものに取り組んでいました。この取り組みでは、女性が活躍するために、男性の側面からのサポートが必要とされてきましたが、その後、そもそも家事や育児がなぜ女性の仕事だと位置づけられているのかといった課題や、男性も少なくとも自身の身の回りのことができるよう自立することも重要だと言われるようになり、女性プランは男女共同参加プランに発展しました。

…そして、最終的には「意思決定に女性が関わっていかねば、男性社会も変わっていかない」、すなわち、“参画”にまで取り組みを進展させ、男女共同参画プランとなりました。

…東大和市でも、国の施策に後押しされ、男女共同参画社会基本法制定の2年後の平成13年に「東大和市男女共同参画推進計画」を策定し、同年に“東大和市男女共同参画都市宣言”も行っています。その後も定期的に計画を見直し、平成23年には「第二次東大和市男女共同参画推進計画」を、平成28年には、その改訂版を策定して、様々な取組んできましたが、この改訂版については計画期間が今年度で終了するため、これまでの取組みの進捗状況や次期推進計画の策定に向けた課題の把握のために、市は昨年12月に市民意識調査を実施しました。

### 東大和市男女共同参画都市宣言 平成13年2月18日

美しい多摩湖と狭山丘陵の緑豊かな東大和市に住むわたしたちは、男女が互いの人権を尊重し、共に平等であることを基本として、性別にとらわれず、あらゆる分野あらゆる環境において、一人ひとりの能力が十分発揮できる社会の実現をめざしここに東大和市を「男女共同参画都市」とすることを宣言します。

- 1 わたしたちは 一人ひとりが自立し 認め合い  
自分らしくいきいきと暮らせるまちをつくります
- 1 わたしたちは 性別による差別をなくし 自らの意思で社会の  
あらゆる分野に参画できる 魅力あるまちをつくります
- 1 わたしたちは 家事・育児・介護などの責任を  
共に分かち合うまちをつくります
- 1 わたしたちは 国際社会の一員として  
安心して暮らせる平和な まちをつくります

### ■市民意識調査では

…今回の市民意識調査は、市内在住の満20歳以上の男女1000人を無作為に抽出し、郵送で実施されました。その回答率は36.8%で男女ともに70代の回答数が約4分の1と高く、次いで男性では50代が約21%、女性では60代が20%となっていました。今回の意識調査は「男女共同参画に関する意識について」、「家庭生活について」、「仕事について」、「ワーク・ライフ・バランスについて」、「社会参加・地域参加について」、「人権について」、「男女共同参画の推進について」の5つのテーマで行われ、それぞれの結果もまとめられており、これらの結果については、男女別、世代別での差があることが見て取れました。

### ■男女平等観は

…まず、最初のテーマである「男女共同参画に関する意識について」では、社会通念、習慣、しきたり、政治の場における男女平等の継続的な啓発や意思決定の場で男女双方の視点を取り入れることができる環境づくりや意識改革等についての現状を確認する内容などになっていますが、ここでの『家庭生活における男女平等観』についての回答では、実感については男女で大きく差があり、女性は平等であると感じていない人が多いことがわかります。

### 【家事・子育て・介護等家庭生活の場での男女平等観】

#### ◇男女別・年代別の平等であると考えている割合

	男性	女性
20歳代	25.0%	7.7%
30歳代	6.3%	4.8%
40歳代	14.8%	2.6%
50歳代	30.3%	5.7%
60歳代	17.9%	4.8%
70歳代	20.5%	9.6%
80歳以上	50.0%	0.0%

### ■役割分担の理想と現状のギャップ

…次のテーマの「家庭生活について」では、男女の役割分担の理想と現状のギャップが大きく表れていました。また、子育てに対する考え方についても調査されていますが、「女の子は『女らしく』、男の子は『男らしく』育てるのが良い」という項目については、“そう思う”と“どちらかといえばそう思う”という回答を合わせると53.9%と半数を超える結果に。一方で「女の子も経済的自立ができるように育てるのが良い」については88.8%、「男の子も、家事ができるように育てるのが良い」については89.1%という高い数値が“そう思う”と“どちらかといえばそう思う”の合計も高くなっていました。（裏面に続く）

## 【家庭における男女の役割分担】 男女合計

	理想	現状
男性は仕事、女性は家事・子育て・介護を分担する	8.2%	21.4%
男性は仕事、女性は家事・子育て・介護に差し支えない範囲で仕事をする	8.2%	20.6%
家事・子育て・介護は主に女性が分担する	1.1%	23.7%
男女とも仕事をし、家事・子育て・介護は主に男性が分担する	0.0%	0.0%
男女とも仕事をし、家事・子育て・介護は男女がともに分担する	56.8%	14.9%
男女とも仕事をし、家事・子育て・介護は家族や民間サービスに任せると	11.7%	3.4%
女性は仕事、男性は家事・子育て・介護を分担する	0.0%	0.8%
女性は仕事、男性は家事・子育て・介護に差し支えない範囲で仕事をする	0.5%	0.0%
その他	1.6%	4.6%
無回答	12.0%	10.7%

## ■仕事とワーク・ライフ・バランスは

…次の「仕事について」の回答からは、パート、アルバイト、派遣社員、契約社員、嘱託員、内職のいずれかの働き方を選んでいる女性のその働き方を選んでいる理由についても調査されており、その回答は1位から3位までの順位には違いはあるものの30歳代～50歳代ともに上位3位の理由は「自分の生活に合わせた時間で働ける」、「正社員では家庭との両立が難しい」、「被扶養者の適用範囲で働きたい」となっていました。また、ワーク・ライフ・バランスについての希望と現実についての回答からは希望と現実のギャップも見られました。

## 【仕事・家庭生活・個人生活の優先度】

優先するもの	希望		現実	
	男性	女性	男性	女性
仕事	3.9%	1.9%	44.4%	18.1%
家庭生活	13.7%	10.5%	3.9%	27.1%
個人の生活	7.8%	12.9%	2.6%	2.9%
仕事と家庭生活	20.3%	14.3%	18.3%	19.5%
仕事と個人の生活	4.6%	4.8%	5.9%	3.8%
家庭生活と個人の生活	13.7%	16.2%	5.9%	8.1%
どれかを優先せず、すべてが充実	26.1%	33.8%	3.3%	6.7%
わからない	0.7%	0.5%	5.2%	6.2%
無回答	9.2%	5.2%	10.5%	7.6%

## ■コミュニティ形成にも影響

…「社会参加・地域参加について」は、地域活動や様々な意思決定の場で性別によらず活動しやすい環境づくりに努めるための調査ですが、地域活動への現在の参加状況については、男女ともに「特にない」が最も高く、今後参加したい活動についても「特にない」が男性28.1%、女性26.1%と2番目に高くなっています。また、現在参加している活動については女性では「趣味やスポーツなどの活動」、「町会、自治会、PTAなどの地域活動」、「子育て支援に関連した活動」が男性と比較して高くなっていますが、「町会、自治会、PTAなどの地域活動」について今後参加したい活動に挙げた人は男性7.8%、女性8.1%と低い状況でした。

## ■名前から本来の意義がわかりづらい？

…前述のとおり、男女共同参画社会の実現に対する取組みの発端は女性の地位向上だったため、“男女平等”とりわけ、仕事や役割分担についてと単純に思われがちになっているところがあります。

…男女共同参画社会基本法で示されている定義は『男女が社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会を形成することをいう。』というもので、これは一言で言うと主体性をもった女性・男性を目標としているということです。

…女性は「女らしく」、弱いもの、守るべきものという従来の考え方に不満のある女性がいること。また、男性は「男らしく」弱音を吐いてはいけないという考えでストレスを貯めて、パートナーに暴力をふるってしまう原因になっている問題や中高年になって自殺に追い込まれるといった問題の解消も男女共同参画の目標の一つです。もちろん、子どもを産みたいのに産めないという環境的、外的理由については、社会的に解決し、少子化に歯止めをかけることや、現役引退後の充実した生活のために、男女ともに地域活動や社会活動に参加しやすい環境を作り、高齢化社会の課題の解決も男女共同参画社会の実現で達成できるともいわれています。

…ただし、一点確認すべきは、従来の役割分担で双方満足しているご夫婦がいた場合、周りが男女不平等などと口を出すということは間違っているということ。“男女共同参画”という名前から、男性と女性を対比させる印象が強いですが、要は個人の色々な生き方、個性を尊重し、その弊害となる社会通念や習慣、しきたりを払しょくしていこうというのがこの施策の真意です。このような真意を「男女共同参画」という名前で表現しきれぬか。さらに現在はLGBTに対する権利の問題もあるので名称についても一考の余地があるようにも思います。東大和市の次期推進計画は、このような真意が伝わるという視点も入れて作成してほしいです。

市政、議会について「自然体」「ざっくばらん」にレポート。コロナ禍において、駅頭での配布は一時、控えております。

## 【プロフィール】「私たちの身近にある市政、市議会。伝えることがスタートだと思います。」



東大和市 市議会議員  
和地 ひとみ

1970年 東京都北区生まれ。父の転勤で1歳から群馬県で育つ。幼稚園からカギっ子。リーダーシップを発揮し、小学校で児童会長、中学校でも生徒会長を務める。大好きな音楽を究めようと武蔵野音楽大学に進学、卒業。卒業後は群馬の山あいの小学校で臨時教諭として担任を2年勤め、新しい試みで授業を活性化させ「元気印の先生」として保護者・生徒から親しまれた。『学校』の外の一般社会で挑戦しようとベンチャー企業の(株)シートゥーネットワーク（※スーパーマーケットを経営。店頭公開から一部上場、外資系企業に転換）に社長秘書として入社。のち店舗現場に異動、同社で初の女性店長となる。月刊誌『日経WOMAN』のベンチャー企業で活躍する女性特集で取り上げられる。その後、人材開発部長を拝命。『人を活かす』経営を学ぶため一念発起しカナダに留学。外から見た日本の将来に、漠然とした不安を感じる。帰国後は、不動産投資会社にて企画業務、税理士対応、広報、社員研修、組織活性化などに従事。2011年4月、初当選。現在3期目。顔の見える議員として、日々奮闘中。

■ 連絡先 和地 ひとみ事務所 HP: <http://www.wachi1103.jp>  
 ✉ wachi\_hitomi@cocoa.ocn.ne.jp 【電話・FAX】 042-516-8546  
 〒207-0005 東大和市高木3-274-2-102